

地方創生推進交付金 効果検証シート

交付金名	「住いも甘いも紀の川市」移住・定住・交流促進プロジェクト	担当課	地域創生課 農林振興課	検証日	令和4年7月1日
事業目的	本市の豊富な地域資源を活かした取組、空き家の把握と活用を推進するための取組、基幹産業である農業を中心としたしごと創出の取組等を一体的に進めるとともに、紀の川市シティプロモーション戦略のブランドコンセプトである「住いも甘いも紀の川市」に込められている「住みよいまち」であることを発信することで移住・定住・交流の促進を図り、社会動態の改善と長期的な人口確保を目指す。				
支出一覧	支出額	支出額の内交付金	支出額の内一般財源		
プロモーション戦略事業	9,130,000	4,565,000	4,565,000		
移住フェア出展事業	249,700	124,850	124,850		
空き家活用促進連携事業	770,000	385,000	385,000		
新規就農者受入プログラム	8,262,173	4,131,086	4,131,087		
合計	18,411,873	9,205,936	9,205,937		

PLAN【計画】

計画概要	<p>■「住いも甘いも紀の川市」移住・定住・交流促進プロジェクト</p> <p>事業継続期・展開期と位置づけ、プロモーション戦略事業においては、マルシェ出展事業（関西圏・市内イベント）を支援し、事業者の自主的な運営体制を整備する。また、移住・定住促進戦略事業においては、前年度に構築した移住・定住ポータルウェブサイトを活用した移住フェアへの出展、空き家情報の掘り起こしのための地域向けセミナーの開催および相談窓口の運営・展開、新規就農者受入プログラムの第1期生の募集、体験研修等の実施等、本格的な事業展開を実施し、次の段階に結びつける。</p>
------	--

DO【実行】

実施結果	<p>■「住いも甘いも紀の川市」移住・定住・交流促進プロジェクトの主な実績</p> <p>①市内のプロジェクトや人を紹介するポータルサイト「紀の川style」作成、はっさく湯の実施等</p> <p>②「おいで！いなか暮らしフェア2021」、「マイナビ就農フェスト」に出展</p> <p>③空き家所有者・空き家活用希望者向けに空き家対策セミナー、相談会を実施</p> <p>④昨年度作成した新規就農者受入プログラムの第1期生を募集し、体験研修の実施等</p>
------	--

CHECK【検証】

指標	単位	総合戦略			実績値（増加数）		目標値（増加数）		最終目標値
		R1	R2	R3	R3	R4	R4		
本事業の K P I	転入者数	人	1,400	+40	-36	+30	+50	+110	
	新規就農者受入プログラム実施による移住者数	人	0	0	0	0	+10	+10	
	移住相談件数	件	113	+9	+51	+30	+50	+90	
市（担当課・創生本部）		審議会							
課題	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響により大規模なイベントへ参加ができず、年度途中の計画変更を余儀なくされたが、プレスリリースの強化や新規情報発信ツールの導入による対応をした。</p> <p>・移住相談件数に比例してワンストップ窓口を利用した移住者数は増加した。一方、空き家バンクの利用登録件数の伸びに比べ、情報提供できる空き家の登録件数は伸びていない。</p> <p>・新規就農者研修プログラム（体験研修会）へ想定を超える応募者があり、受入農家を増やすことで採用枠を急遽増やしたが、より多くの受入れをするためには、受入農家の確保が急務である。</p>				<p>・転入者数は前年度と比べて減少はしているものの、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながら、事業を着実に実施していること、また新規就農者受入プログラムにおける栽培品目について、短期間での収益性を考慮した中でイチゴを選択し事業を進めていることは評価できる。</p> <p>・左記の課題に加え、今後は、アフターコロナを見据えた事業展開に向けた準備が必要であるとはもちろんのこと、現在のコロナ禍における移住や新規就農希望者のニーズを的確に把握し、今まで以上に地域の魅力の発信力の強化が必要であると考えている。</p>				

ACTION【改善】

市（担当課・創生本部）		審議会	
改善策	<p>・第3期シティプロモーション戦略に備え、第2期戦略の課題整理を行い、状況に応じた効果的な事業の遂行をする。</p> <p>・民生委員や区長への啓発に注力することで、情報提供できる空き家の登録件数を増加させる。</p> <p>・現在の受入農家やJA紀の里からの紹介や那賀地方いちご生産組合連合会などに募集をかけることで、受入農家の確保に努める。</p>	改善策	<p>・左記の改善策に加え、当該事業を効率的で効果的に推進し、地域の魅力を強力に発信していくためには、地域コミュニティや事業者・農業者と連携し、綿密な情報共有ができる体制を構築することが必要であると考えている。</p> <p>・新規就農者受入プログラムにおけるイチゴ以外の横展開を見据えた中で、新規就農者がなぜ紀の川市を選択したのか等のヒアリングが必要であると考えている。</p> <p>・若い世代の移住者の増加には、教育や保育の環境が充実していることのアピールが必要であると考えている。</p>